

基本目標	基本施策	活動タイトル	どんな活動を	だれが(人)	いつ(時)	どこで(場所)	どうやって(仕組)	広く市民の皆さんに伝えるキャッチフレーズを一言で!
ひろげる	①	既存組織(グループ)の体系化と活用	行政区・自主防災・自治会・家推・老人会・こども会・民生委員・ボランティア団体を地域福祉推進で体系化する。 ※自助・共助を推進する。	リーダー:行政区長 補佐:自主防災隊長、老人会長、民生委員代表、ボランティア代表	平成27年度(1年間)		まずは小学校区のサポーター会議で。	
	①	個人情報の共有	地域福祉を推進する単位で個人情報を共有する。 =開示できる環境を整える。	自治会長、自主防災隊長、民生委員				
	②	課題解決の体制づくり	地域の課題を自分のものとして把握(認識)する。	行政区長(自治会長)				
	②	地域福祉を推進する、コーディネーターを配置する。	地域が抱える福祉問題を解決するためには、各団体や人をつなぐ役割の人が必要。 場合によっては個々の困難ケースに対しても適切な人と連携して解決につなげる仕事も行う。	コミュニティ・ソーシャルワークを学んだ方。(位置づけとしては市の非常勤職員?)または、市の若手職員で研修を積んだ方。	決められた時間の範囲内。(最低週3日くらいは必要)	各地区の集会場・公民館・福祉会館	小学校区ごとの各拠点にコーディネーターを配置する。	地域をまるくつなげる助っ人ができました!
	②	地域社協の組織づくり	地域毎に異なる課題・問題を把握し、組織による問題解決を図る活動を展開する。	日進の場合、区単位で ※区長設置条例の改正を行い、福祉取組を明示する。	平成27年度	日進市全域で	区長、民生委員を中心にして(区域会成員、組長、老人クラブ、婦人会、こども会、地域防災、等に参加させて)	福祉はみんなで解決を!! いつか自分も世話になる。
			浅田、赤池、梅森にはホットカフェ等での高齢者が会議をする場がないため、1カ所は開設してほしい。	65歳以上の方	本年中までに	それぞれの地域にとって利便性の良い場所		
ささえる	①	移動型ボランティア相談窓口	・ボランティアをやりたい人と求める人をマッチングさせる ・ボランティアをやりたい人へのサポート(相談など) ・ボランティアをやる人への指導 ・掲示板などで伝える		休日(定期的に)	若い人が集まる場所(図書館?)	今あるボランティア相談窓口(火曜日)を中心に。	出張!!ボランティアセンター
	①	既存ボランティア団体間の情報共有	各団体代表者間での情報共有、定例会を社協等を交えて開き、キーパーソンの意識づくり。	各団体代表者 社協 等	定期的に	中央福祉センター 障害者福祉センター	各代表者で話し合ったことを、それぞれが自分の所属の団体へ伝え、地域全体での情報共有。 代表者で話し合う中でもキーパーソンの意識づくり。 →1人に負担のかからないリーダーづくり	

基本目標	基本施策	活動タイトル	どんな活動を	だれが(人)	いつ(時)	どこで(場所)	どうやって(仕組)	広く市民の皆さんに伝えるキャッチフレーズを一言で!
ささえる	②	地域内の合同連絡会の推進(地域社会の活動をささえる)	地域の福祉活動、防災・防犯活動、こども育成等とのグループと共に自治会が主体になって合同連絡(検討)会を開いて、又はそれぞれの活動について勉強会を開く活動を行える様に希望する。	自治会が主体でそれぞれのグループリーダーがリーダーシップを発揮する。	定期的に	自分の地域内で	自治会が自主的に働く様に行政が指導する。	合同連絡会を推進
	②	事業者連絡協議会	事業者みんなで必要としている情報を提供します。市内の事業者の誰に聞いても必要な情報を得られる。	事業者の代表	随時			どこへ行っても必要な情報が得られる
	②	活動の場を提供します	空き家、空き部屋を提供します。空き家、空き部屋を活動の拠点として提供する、そこへ行けば何をしているかわかる。	社協や行政	いつでも	空き家、空き部屋バンク	社協や行政がルール作りをして。	
		不登校・ひきこもりをささえる	・親の会立ち上げ ・相談機関の設置 ・若者育成支援	社協 NPO	すぐに	市内公共施設 市全域対象		
		困りごとを抱える人をささえる	地域での集いの場に困りごとを抱える人も参加できるようにする。困りごとを抱える人に地域が気づけるように→気づいて支える。	集いの場参加者 民生委員会 地区社協	すぐに	・地域の集いの場 ・テーマごとの事業や活動の場(子育て、高齢者など)	本当に困っている人は、自分から言い出すことが難しいケースがある。また、自分自身が困難な状況にあることに気づいてない人もいる。地域の人に気づいてもらい支援につなげる困難な状況にある人への地域での理解をすすめる→気づきやすくなる、言い出しやすくなる。	
		若者の社会的自立をささえる	若者サポートセンター・青少年センター・こども若者相談支援センターの設置	市 NPO	すぐに	日進市内・公共施設・教育支援センター・市全域対象		
		社会福祉活動の継続・開発の支援(社会福祉活動をささえる)	・人材バンク ・拠点バンク ・資金バンク(ファンド?) ・スキルアップのための研修 ・連絡調整	市もしくは社協 + 市民ボランティア、他の関心のある人	通年	各々の拠点(図書館に出張所)	情報収集・整理・広報	

基本目標	基本施策	活動タイトル	どんな活動を	だれが(人)	いつ(時)	どこで(場所)	どうやって(仕組)	広く市民の皆さんに伝えるキャッチフレーズを一言で!
つなぎ、育てる	①	〇〇小学校区サポーター会議 ＝地域助け合い会議(誰もが参加しやすくなる)	・地域の問題は自分たちの問題だと認識してもらうため、より多くの方に「集まってもらう(自治会、関係団体(老人クラブ・子ども会、施設職員など)) ・自分の力(趣味・好きなこと)が”地域の力”になると実感ができる場 ・自分たちの地域課題を他域に発信し、さらなるつながりをもたせる。	立ち上げには行政・社協(＝信頼の力)に携わってもらう。(行政の発信力と予算。) 運営はその地域の住民が中心となる。	すぐに	小学校区(範囲)	若い世代を含め「次も参加しよう」「ずっと携わりたい」と思えるような場にする。 (例)「絆の会」の＜劇団玉手箱＞「カラオケ」「料理教室」「犬友の会」「NPO」	
		高齢者の見守り集いの場の形成、つなぎ”喫茶店”(例)浅田区民会館、	特に90歳以上(500人もいる)の方をいかに見守るのか。ご本人にとって楽しい場所、また地域の役職(ex議員さん等)の方にも協力してもらえる場 ×ない地域もある 計画を作るだけでは終わらない	自治会ができる仕組みを作る(←行政、社協)		空家を活用できる。各地域の会館、集会所	歩ける方ばかりではない→支える仕組みを協議会(体)を作る	
		集いの場(カフェ、サロン、ぷらっとホーム)つながり	既存の集いの場に横のつながりを作る。また新しい場を作りやすい場作り。 ×存在自体知らない					
		90歳以上の高齢者を訪問する	90歳以上の高齢者を訪問する。 役員、市議員、区長の会議に3000円/回出すのはやめること(私たち市民は500円/回)・・・区長も市議員も手当てをもらっているのにその上3000円/回も出すのはもったいない。	市民と市議員(20人)と評議員と役員等	1ヶ月に1回			



第⑥回サポーター会議で追記された意見を示す。

役割分担シート

基本目標	基本施策	活動タイトル	市民	行政	福祉事業者	社会福祉協議会
ひろげる	②	地域福祉を推進する、コーディネーターを配置する。	各組織で自分ができることを明らかにしておく。 関心がない人を取り入れるのは難しい(そこにエネルギーをかけるなら違うことも)。老人会などの各組織内で自助、共助を行う。	理解する。 19ある行政区のレベルをそろえる。 予算をつける。 職員は専門性を活かす。	専門職としての答えを出すことができる。 専門でなければ誰かに橋渡し。 コーディネーター(各社の利益にしないように)。	改善事例等を提示することに徹する。 相談に乗ってほしい。 ※福祉事業者とは違うことをする。 小学校区に情報が来ないような相談にのる。
ささえる		不登校・ひきこもりをささえる	不登校やひきこもりについて知り、正しく理解する。	相談窓口の設置。 支援体制を作る。	親の会や当事者が集まる場の設置、運営。	不登校やひきこもりの人へのアプローチ。
		不登校・ひきこもりをささえる	不登校、ひきこもりの人達への関心、理解をもつ。	現状把握。 サポートセンター等の設置。 相談の場提供。	若者サポートセンター等の設置。 交流会、講座を行う。	交流会、講座の場所提供。 情報発信。 当事者へのアプローチ。
		困りごとを抱える人をささえる	様々な困りごとを抱えている人がいることを知り、理解する。	市民に対しての意識啓発。 相談窓口の設置。	困りごとを抱えている人が参加しやすい場を作る。	困りごとを抱える人へのアプローチ。
		困りごとを抱える人をささえる	困っている人がいることに気づく→報告。行事に参加しやすい環境作り。	お金の確保の作成。 バンク制度の作成。 施設の使いやすさの大切(NPO、ボランティア)。 サポーターの活用。(受けられるように市民に教育、周知活動)	カウンセリング(心理学を学べる大学、NPO)。 意見提供、相談。	困ったいる人がいることの報告を受け、対応する組織を作成。 福祉事業者との連絡。
		社会福祉活動の継続・開発の支援(社会福祉活動をささえる)	関心のある福祉活動に参加する。 自らが抱える問題の解決のために学習し、つながりを作る。 個別の問題に対応できる専門性を身につける。	連絡調整。 計画の実施の確認。 予算調整。 広報。 後方支援。	各事業の充実。 個別ニーズの把握。 専門性の向上。	情報集約。 各団体の連絡調整。 事務局機能。 専門性向上の為の講習会。 遅れている事業の支援(困っている人、若者自立支援、不登校)→個別ニーズの把握。

役割分担シート

基本目標	基本施策	活動タイトル	市民	行政	福祉事業者	社会福祉協議会
つなぎ、育てる	①	〇〇小学校区サポーター会議＝地域助け合い会議(誰もが参加しやすくなる)	既存のグループ(パトロール)。自治会が目標にもち、住民に知らせていく。問題解決に向けて適任な人。	お金、場所。説明会の中で各区、自治会に広報。	やりたい!という気持ちがある。客観的な視点を持つ人。	具体的に日を決めて行っていく。(人材育成)
		高齢者の見守り集いの場の形成、つなぎ”喫茶店”(例)浅田区民会館、	送迎可能な人材をまとめる人。	費用を持つ。(うしろだて)	お金をもらった有償活動(送迎)1200円/人等の(シルバー)ワンコインサービスを行う。	-